

令和6年度地域生活支援部会 総括

- (地域生活支援部会の目的)
- ・「地域生活支援拠点等事業」の整備を当面の目的とするが、障がいのある方やその家族が安心して生活を送ることができる地域づくりを目的とした活動を行う
- (令和6年度の取り組み目標)
- ・市民向け：緊急にならないために実効性のある支援の後押し
 - ・事業所向け：ネットワーク作り、事例集を見据えた個別事例の報告書の作成

【全体】

	日にち	場所	参加人数	活動名	内容	成果
1	令和6年5月2日	第2委員会室	11名	令和6年度の活動計画について 拠点等事業の市民向け周知について	1, 自立支援協議会の守秘義務について 2, 令和5年度第6回部会の振り返り 3, 令和6年度の年間計画について 4, 地域生活支援拠点等事業の周知(市民向け)について	事務局が作成した市民向けのチラシについて意見を出し合った。 ➡市HPに掲載されている。 市内事業所で配布されて周知活動に繋がっている
2	令和6年7月4日	新座市社協 大会議室	10名	拠点等事業登録利用者の事例報告①(事例 検討の場合もあり)	1, 第1回部会の振り返り 2, 地域生活支援拠点等事業の現状について 3, 事例検討1 4, 地域生活支援拠点等事業の周知について	・事例検討①の成果 1, 拠点等事業の具体的な流れが分かった 2, 市民向けチラシがきっかけで本人、家族が行動へ移すことができた 3, 困しんシートは、連絡先の整理、事業所の役割を明確にするツールとして活用できるがわかった
3	令和6年9月5日	303・304	31名	拠点等登録事業所の顔合わせ	1, 地域生活支援部会について 2, 新座市の地域生活支援拠点等事業の概要と現状 3, 自己紹介 4, 意見交換	・拠点等事業の登録(登録予定)事業所、18事業所で顔合わせ ・日中活動を行う通所系事業所／居宅介護・移動支援・生活サポートなど在宅支援／相談支援／グループホーム／入所施設の5分野 幅広い事業所が参加して顔合わせができた。新座市の拠点等事業は「老障介護等で対応が難しいケースを一つの事業所ではなく、地域で支える仕組み作り、仲間づくり」としているが、参加者からも仲間づくりが必要であるという声がきけた ・アンケートを実施して事業所見学会や強度行動障がいの方の支援に関する学習会、数人のグループ分けをした事業所同士の話せる場、実際に拠点等事業で行った支援について知りたいという意見があった。
4	令和6年11月7日	第2委員会室	12名	拠点等事業登録利用者の事例報告②(事例 検討の場合もあり)	1, 第3回部会の振り返り 2, 地域生活支援拠点等事業の現状について 3, 事例検討2 4, 個別事例の報告書について	・事例検討②の成果 1, 事例検討による課題の整理が有効 2, 実際に行う個別支援会議につながる支援方法のアイディアを出しあうことができた。
5	令和7年1月9日	第2委員会室	8名	個別事例の報告書について	1, 第4回部会の振り返り 2, 地域生活支援拠点等事業の現状について 3, 個別事例の報告書について 4, 令和6年度の振り返り・来年度に向けて	・個別事例の報告書を作成する目的を確認することができた。また、担当者を選出したことで、作成に向けて具体的に動き始めた。
6	令和7年3月6日	新座市社協 大会議室	22名	拠点等登録事業所のネットワークづくり	1, 地域生活支援拠点等事業の現状について 2, グループワーク「緊急対応を行った事例の共有と意見交換」	・拠点等事業の登録(登録予定)事業所、15事業所が出席。 ・参加者の体験談から緊急対応の現状や課題を知ることができた。 ・活気あるグループワークを通じて、顔の見える関係を深める機会になった。

【令和6年度の地域生活支援部会の成果、来年度の活動について】

- ・当面の目的である「地域生活支援拠点等事業」が整備され、動き始めた年。事務局が作成した市民向けのチラシを活用して、拠点等事業の周知を後押しすることができた。
- ・拠点等事業に利用者登録した方が増加していることから徐々に動き始めているという手ごたえを共有することができた。一方、主な対象者である老障介護の方の登録が少数であることから、今後も周知を後押しすることが求められている。
- ・拠点等事業の登録事業者(登録予定事業者も含む)のネットワークづくりにつながる取り組みができた。参加者から、参加して良かったという感想を頂くことができた。次年度も、引き続きネットワークの広がり強化を目指した取り組みが必要である。
- ・事例集を見据えた個別事例の報告書の作成は、作成の目的と今後の道筋を決めることができたものの、作成までに至らなかった。次年度も継続して取り組んでいく必要がある。